


IAM MARKET INSIGHT
マーケット・インサイト

2024年8月26日

代表取締役社長 秋野 充成


 いちよしアセットマネジメント
今週のポイント**日米中銀トップの発言はマーケットフレンドリーな内容に**

注目された日米中銀トップの発言は、マーケットフレンドリーなものとなりました。日銀の植田総裁は23日、衆参両院の閉会中審査に出席し年内の追加利上げシナリオを維持しつつも、株式・為替相場について「引続き不安定な状況にある」と述べ、内田副総裁との認識差は無いと強調しました(内田副総裁は7日の講演で市場が不安定な状況での追加利上げに否定的な見解を示していた)。

一方、FRBのパウエル議長は23日、ジャクソンホール会合※で講演し米国のインフレについて「(物価目標である)2%に持続的に戻る軌道にあるという自信が深まっている」と語りました。その上で「政策を調整する時期が来ている」とも述べ、近く利下げに踏み切る姿勢を示しました。明確に利下げ転換を宣言した格好です。また、景気が大幅に後退する懸念を示すこともなく、ソフトランディング(景気の軟着陸)路線を維持したこともマーケットに好感されました。NYダウは23日の取引時間中に一時、7月17日に付けた最高値41,198ドルを上回りました(終値は41,175ドル)。米10年債利回りは3.81%まで低下しています。

今後は緩やかな円高が進行し、ドル建て日経平均株価の上昇が見込まれる

8月の嵐は収まり、マーケットは平穏な状況を取り戻したと思われます。FRBの利下げ転換は、日米金利差縮小からドル円相場が円高傾向を強める懸念がありますが、米国経済がソフトランディングシナリオを維持し、日銀の前のめりな利上げ姿勢が無ければ、緩やかな円高となりそうです。140円を上回り、企業業績に下方修正リスクをもたらすことは無いでしょう。むしろ緩やかな円高傾向が続けば、ドル建て日経平均株価の上昇が顕著となり、海外投資家の日本株シフトを促すこととなります。ドル建て日経平均株価は23日には263.36ドルとなり、7月11日の直近高値261.17ドルを上回っています。7月末比の騰落率はS&P500を上回っており、海外長期投資家が日本株のアンダーウエイトをリスクと感じ始めています。

28日のエヌビディアの決算発表に注目が集まる

今週のポイントは28日のエヌビディア決算発表(5~7月期)です。同社の株価は23日に129.37ドルで終了しており、6月18日に付けた終値ベースの最高値135.58ドルの95%水準まで回復しています(SOX指数(フィラデルフィア半導体株価指数)は7月10日の高値5,904.535ポイントに対し、23日終値は5,228.653ポイントであり、89%水準)。エヌビディア決算への期待値が高いことがわかります。

これまでは、売上高が会社予想を10%程度上回る着地が続いてきました。今回の会社予想(5月時点)は280億ドル±2%です。従来、エヌビディアの売上高は台湾の輸出金額を若干下回る数値が発表されてきました(2024年1月期は対米輸出額247億ドルに対して同社売上高221億ドル、2024年4月期は同263億ドルに対して同260.4億ドル)。5~7月の台湾から米国への輸出額は287億ドルです。今回も会社予想を上回る数値が公表されると思われますが、従来に比べて上振れ幅が小さくなる可能性が高いと思われます。日経平均株価はエヌビディアとの連動性が高く、一時的なショック安(期待値が高く下落しやすい状況になっている)が起こる可能性があります。また、場合によっては2番底への起点となるかもしれません。ただし、セオリー通り2番底は絶好のエントリー好機です(日経平均株価36,000円レベル)。

※ 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

~ワンポイント用語集~

- ※ ジャクソンホール会合…米国のカンザスシティ連邦準備銀行が米国ワイオミング州のジャクソンホールで毎年夏に開く金融・経済シンポジウム。FRB議長など各国中央銀行の要人や経済学者らが出席し、議論することで知られている。会議におけるFRB議長の講演は、米国の金融政策を占う手掛かりとして注目されている。